

研究プロジェクト「東アジア古典演劇の「伝統」と「近代」
－「伝統」の相対化と「文化」の動態把握の試み－

Research project: Traditional and modern aspects of classical theatre in East Asia:
Clarification of changing aspects of tradition and culture

研究代表者： 毛利 三彌 成城大学名誉教授

Project leader: Dr. Mitsuya MORI, Professor emeritus of Seijo University

研究目的要旨：

日本、中国、韓国の古典演劇（能、狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃、京劇、崑劇、川劇、儺劇、タルチュム、パンソリ）が、科学技術の進歩とともに到来した近代という時代に、どのように変質したかを、「演劇という芸術の近代化」という視点や、近代における東アジアの民俗芸能の変容という視点をもまじえて検証し、「伝統」というものの実態を把握し、「文化」の動態把握のモデルを提示する。

研究目的：

①背景：

日本でいえば、能楽、歌舞伎、文楽の伝統演劇と呼ばれる演劇は、その「伝統」という言葉によって、一般的に「不変」というイメージが強い。しかし、俳優という「人」によって担われる演劇が100年、200年という時間の経過のなかで「不変」であることは常識的にも考えがたく、実際にはかなり大きな変容をとげているのだが、「伝統」という言葉の呪力からであろう、一般的には「不変」と思われているのが実情である。もちろん、伝統演劇の研究においては、その変容は当然認識されているが、変容の実態となると、研究はほとんどなされていないのが現状である。本プロジェクトはそうした現状に着目して、近代における変容の実態を伝統演劇各分野において明らかにし、それによって、従来の伝統演劇研究には欠落していた面を補い、トータルな伝統演劇研究の進展に資したと考えている。

②必要性：

本プロジェクトは近代における伝統演劇の変容の実態究明を目的としているが、対象とする時代を近代としたのは、近代が科学技術が飛躍的に発展した時代であり、それだけに伝統的な演劇がこうむった影響が大きかったからである。従って、近代における伝統演劇の変容についての研究は、「近代」という、われわれにもっとも近く、また、歴史的にも特異な時代たる「近代」の特質を明らかにすることにもなるわけである。このような視点からの「近代」研究はこれまではなかったものであり、その点で、本プロジェクトによって、新しい「近代」研究の地平が開かれることが期待される。

③方針：

本プロジェクトは、以下のような目標に沿って推進される。

（１）伝統演劇における「伝統」という概念の解明。

日本、中国、韓国朝鮮の伝統演劇における「伝統」の概念とはどのようなものか、あるいは、そこにはどのような違いがあるかについての解明。これには、当然、西洋演劇における「伝統」概念との対比が求められる。

（２）東アジアにおける演劇の「近代化」の実態の解明。

「近代」は、もともと西洋における時代概念であるから、非西洋における「近代」は多くの場合、「近代化」のあり方となるが、その過程は国によって異なり、同一の国でも演劇のジャンルによって、「近代化」の様相も異なる。その実態と、そのような違いが生じる理由（背景）の解明。

(3) 世界の演劇思潮と東アジア演劇との関係についての解明。

「モダン」と「ポストモダン」、あるいは「近代性」と「ポスト近代性」については芸術諸分野において種々の議論がなされているが、ポストモダンの時代になって、演劇の分野では、アジアの伝統演劇への関心が高まっている。この潮流は演劇史的にどのようなとらえるべきなのか。

(4) 近代の伝統演劇と近代の科学・技術の関係についての研究。

近代の科学と技術は、近代の文化にも多大の影響を与えてきた。伝統演劇あるいは演劇一般の近代化は、その近代の科学・技術、あるいは近代経済にどのような影響をうけてきたのか。

Objectives:

To explore the traditional and cultural aspects of classical theatres in China, Korea and Japan, which have been changing under the influences of scientific and socio-economical development in modern times, from the perspective of modernization of theatre and transformation of folk performance (*minzoku-geinoh*) in East-Asia.

キーワード: 伝統、近代、演劇、東アジア

Key Word: Tradition, Modern, Theatre, East-Asia

参加研究者リスト: 16 名 (◎研究代表者)

氏 名	職 名 等
◎毛利 三彌	成城大学名誉教授／比較演劇
岩井 眞実	福岡女学院大学人文学部教授／歌舞伎
内山 美樹子	早稲田大学名誉教授／文楽
恵阪 悟	羽衣国際大学現代社会学部非常勤講師／能楽
大西 秀紀	京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師
神山 彰	明治大学文学部教授／歌舞伎
小田中 章浩	大阪市立大学大学院文学研究科教授／フランス近代演劇
佐藤 かつら	青山学院大学文学部准教授／歌舞伎
田草川 みずき	早稲田大学文学学術院特別研究員／日本古典演劇
中尾 薫	大阪大学大学院文学研究科専任講師／能楽
野村 伸一	慶応義塾大学文学部教授／韓国演劇
平林 宣和	早稲田大学政治経済学術院准教授／中国演劇
正木 喜勝	大阪大学大学院文学研究科招へい研究員／日本近代演劇
山下 一夫	慶応義塾大学理工学部准教授／中国演劇
山路 興造	京都女子大学文学部日本史専攻非常勤講師／日本芸能史・民俗芸能
横山 太郎	跡見女学園大学文学部准教授／能楽

2012 年度研究活動予定:

①研究会開催予定:

第 1 回: 2012 年 9 月 10 日～9 月 11 日 (於 高等研)

第 2 回: 2012 年 12 月 17 日～12 月 18 日 (於 高等研)

※以上はいずれも予定。

②話題提供予定者:

話題提供者は 2 名 (各回 1 名) を予定しているが、現時点では具体的には決まっていない。なお、話題提供者としては、演劇研究者だけでなく、歴史学、社会学の研究者の招聘も考えている。

2012 年 7 月 1 日現在

担当：天野副所長

国際高等研究所 研究プロジェクト
「東アジア古典演劇の「伝統」と「近代」－伝統の相対化と文化の動態把握の試み－」
2012 年度第 1 回研究会プログラム

日 時：2012 年 8 月 20 日（月） 13：00～17：00
 8 月 21 日（火） 9：30～15：30

場 所：国際高等研究所 セミナー 1（1F）

出席者：（17 人）

研究代表者	毛利 三彌	成城大学名誉教授
参加研究者	岩井 眞実	福岡女学院大学人文学部教授
	内山 美樹子	早稲田大学名誉教授
	恵阪 悟	羽衣国際大学現代社会学部非常勤講師
	大西 秀紀	京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師
	神山 彰	明治大学文学部教授
	佐藤 かつら	青山学院大学文学部准教授
	野村 伸一	慶応義塾大学文学部教授
	平林 宣和	早稲田大学政治経済学術院准教授
	正木 喜勝	大阪大学大学院文学研究科招へい研究員
	山下 一夫	慶応義塾大学理工学部准教授
	山路 興造	京都女子大学文学部非常勤講師
	横山 太郎	跡見女学園大学文学部准教授
その他参加者	天野 文雄	国際高等研究所副所長
	戸田 健太郎	大阪大学大学院生
	長田 あかね	京都造形芸術大学講師
	藤岡 道子	聖母女学院大学教授

プログラム

8 月 20 日（月）

13：00	〔報告①〕 毛利 三彌氏 「本プロジェクトの目的、意義」
13：40	休憩
14：00	〔報告②〕 横山 太郎氏 「近代における能楽の変化についての研究状況」
14：40	〔報告③〕 神山 彰氏

15 : 20 「近代における歌舞伎の変化についての研究状況」
休憩

15 : 40 〔報告④〕 内山 美樹子氏
「近代における文楽の変化についての研究状況」

16 : 20 〔報告⑤〕 平林 宣和氏
「近代における京劇崑劇の変化についての研究状況」

17 : 00 終了

8 月 21 日 (火)

9 : 30 「研究テーマに関する自身のこれまでの研究と今後の方針」 各 3 0 分
〔報告⑥〕 岩井 眞実氏
〔報告⑦〕 大西 秀紀
〔報告⑧〕 佐藤 かつら氏
〔報告⑨〕 野村 伸一氏

11 : 30 昼食

12 : 30 「研究テーマに関する自身のこれまでの研究と今後の方針」 各 3 0 分
〔報告⑩〕 正木 喜勝氏
〔報告⑪〕 山下 一夫氏
〔報告⑫〕 山路 興造氏

14 : 00 休憩

14 : 20 「研究テーマに関する自身のこれまでの研究と今後の方針」
〔報告⑬〕 天野 文雄氏

14 : 50 今後の進め方についての協議 (全員)

15 : 30 閉会

国際高等研究所 研究プロジェクト
「東アジア古典演劇の「伝統」と「近代」－伝統の相対化と文化の動態把握の試み－」
2012 年度第 2 回研究会プログラム

日 時：2013 年 2 月 22 日（金） 14：00～17：20
 2 月 23 日（土） 9：00～17：00

場 所：国際高等研究所 セミナー 1（1F）

出席者：（18 人）

研究代表者	毛利 三彌	成城大学名誉教授
参加研究者	内山 美樹子	早稲田大学名誉教授
**	恵阪 悟	羽衣国際大学現代社会学部非常勤講師
	大西 秀紀	京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師
	神山 彰	明治大学文学部教授
**	小田中 章浩	大阪市立大学大学院文学研究科教授
	佐藤 かつら	青山学院大学文学部准教授
**	田草川 みずき	日本学術振興会特別研究員 RPD
**	中尾 薫	大阪大学大学院文学研究科専任講師
	正木 喜勝	大阪大学大学院文学研究科招へい研究員
	山路 興造	京都女子大学文学部非常勤講師
	横山 太郎	跡見女学園大学文学部准教授

**：スピーカー

話題提供者（ゲストスピーカー）

高木 浩志	元 NHK プロデューサー
天野 文雄	国際高等研究所副所長

その他参加者	Cody Poulton	Pacific and Asian Studies, University of Victoria, Professor
	加賀谷 真子	同志社大学客員教授/ウィリアムズ大学アジア学部教授
	鈴木 雅恵	京都産業大学外国語学部教授
	長田 あかね	京都造形芸術大学非常勤講師

プログラム

2月22日（金）

- 14：00 〔報告①〕 小田中 章浩氏（大阪市立大学大学院文学研究科教授）
「第一次世界大戦とヨーロッパ演劇の黄昏」
- 15：30 休憩
- 15：50 ゲスト講演 高木 浩志氏（元 NHK プロデューサー）
「近代文楽の変化とその背景」
- 17：20 終了

2月23日（土）

- 9：00 〔報告②〕 中尾 薫氏（大阪大学大学院文学研究科専任講師）
「近代能楽の一事象」
- 10：30 休憩
- 10：50 〔報告③〕 惠阪 悟氏（羽衣国際大学現代社会学部非常勤講師）
「芸談に見る能の近代」
- 12：20 昼食
- 13：20 〔報告④〕 田草川 みずき氏（早稲田大学非常勤講師）
「北条時頼記」女鉢の木雪の段における<文弥節>
-その歴史的価値と近代以降の上演をめぐって
付・近現代における浄瑠璃芸論研究
- 14：50 休憩
- 15：10 〔報告⑤〕 天野 文雄氏（国際高等研究所副所長）
「「部分」への偏向ー近代における能楽の受容とその前史ー」
- 16：40 総括
- 17：00 終了